

【令和4年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第1回）要点録	
開催日時	令和5年3月23日（木）15時30分～17時20分
開催場所	江田島市役所 本庁 4階 401・402会議室
出席者	<p>■有識者会議委員（敬称略 所属団体については就任時の状況）</p> <p>濱谷 一真 江田島市自治会連合会 中下 友希 江田島市PTA連合会 外菌 真弥 江田島市認定こども園えたじま保護者会 後藤 峻 江田島市交流定住促進協議会 小原 正清 江田島市農業委員会 三浦 誠 江田島市漁業振興協議会 平田 圭司 江田島市商工会（代理：事務局長 渡辺 高久） 上水流 久彦（座長） 広島県公立大学法人県立広島大学 長光 正樹 江田島市金融懇談会（広島銀行） 木家 浩二 厚生労働省広島労働局呉公共職業安定所 梅田 真紀 広島県健康福祉局子供未来応援課</p> <p>■江田島市</p> <p>【事務局：企画部企画振興課】</p> <p>畑河内 真 企画部企画振興課 課長 飴野 秀樹 企画部企画振興課 課長補佐 重田 あゆみ 企画部企画振興課 企画係長 植永 紘章 企画部企画振興課 主任主事</p> <p>【事務局：株式会社エブリプラン呉営業所】</p> <p>木原 隆</p>
欠席者	伊藤 富美雄（江田島市観光協会）
傍聴者	—
会議次第 及び資料	<p>会議次第</p> <p>1 開会 2 座長あいさつ 3 自己紹介 4 報告・協議事項 （1）令和3年人口推計・広島県人口移動統計調査の結果について （2）令和4年市民満足度調査の結果について （3）第2期人口ビジョン・総合戦略の進捗管理について （4）令和2・3年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の効果検証 について</p> <p>5 その他 6 閉会</p> <p>【資料】</p> <p>資料1：令和3年人口推計・広島県人口移動統計調査の結果について 資料2：令和4年市民満足度調査の結果について 資料3：第2期人口ビジョン・総合戦略の進捗管理について 資料4-1：令和2・3年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の効果 検証について 資料4-2：令和2年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金効果検証シ ート 資料4-3：令和3年度 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金効果検証 シート</p> <p>参考：江田島市まち・ひと・しごと創生本部設置要綱</p>

【令和4年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

事務局	<p>1 開会</p> <p>定刻となりましたので、始めさせていただきます。</p> <p>本日はお忙しい中、また雨の降る中、お集まりいただき誠にありがとうございます。会議の開催に先立ちまして、本日の会議資料の確認をさせていただきます。</p> <p>最初に有識者会議の次第、委員名簿。資料1として、『令和3年人口推計・広島県人口移動統計調査の結果について』。資料2として、『令和4年度市民満足度調査の結果について』。資料3として、『第2期人口ビジョン・総合戦略の進捗管理について』。最後に資料4として、『令和2・3年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の効果検証について』となります。また参考として、『江田島市まち・ひと・しごと創生本部設置要綱』となります。資料は以上になりますが、不足等はございますでしょうか。</p> <p>また、市交流定住促進協議会の委員からメモをいただきましたので、配布させていただきます。</p> <p>本日、議事録作成のため、会議を録音させていただきます。ご了承ください。</p> <p>それではただ今から、令和4年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催いたします。会議は次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>それでは座長からあいさつをお願いします。</p>
座長	<p>2 座長あいさつ</p> <p>令和3年3月にこの会議を経て、江田島市第2期人口ビジョン・総合戦略が策定され、地方創生に関して、この会議で検証していくこととなっています。本日もご出席いただいた皆さまから忌憚のないご意見を頂ければと思っておりますので、よろしくお願いいいたします。</p> <p>円滑な運営にご協力をいただければ幸いです。簡単ですが、あいさつとさせていただきます。</p>
事務局	<p>3 自己紹介</p> <p>それでは、本日出席の委員の皆さまに自己紹介をお願いしたいのですが、先にお知らせとして、当委員会の委員のうち、1名の方から欠席の連絡をいただいております。また、代理として1名の方に出席をいただいております。</p> <p>それでは自己紹介ということで、ひと言ずつお願いできればと思います。</p>
各委員	<p>※ 自己紹介（P1の「出席者－有識者会議委員」を参照）</p>
事務局	<p>続いて事務局から自己紹介をさせていただきます。※ 事務局から自己紹介</p>
事務局	<p>本日、よろしく申し上げます。また、この会議に議事録の作成支援として、株式会社エブリプランから1名の方に出席をいただいております。</p>
事務局	<p>4 報告・協議事項</p> <p>当会議の進行につきましては、有識者会議設置要綱の規定により座長が議長となります。ここからの進行は議長をお願いしたいと思います。</p>
座長	<p>それでは、ここからの議事進行は私が進めてまいります。</p> <p>最初に報告・協議事項として『令和3年人口推計、広島県人口移動統計調査の結果について』事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(1) 令和3年人口推計・広島県人口移動統計調査の結果について【資料1】</p>

【令和4年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	※ 内容は、資料1のとおり
座長	<p>この件について、ご質問やご意見はございますか。</p> <p>1点、私からコメントをさせていただきます。2ページの年齢別の統計で気になるところは20歳から24歳、25歳から29歳の性別比で、男性が547人と524人に対し、女性が317人と294人となっています。下の年齢を見ていくと、それまではだいたい似ています。0歳から4歳は238人と232人なので、だいたい1対1の比率になっていますが、20代は極端に割合が低く、これは女性が外に出ているということの可能性が高い。この世代が減っていくというのは、将来的には非常に人口がマイナスになっていくということが予想されます。流出をどう止めていくかということを考えないと、人口減の対応ができないだろうと思っています。ここは今後も意識しながら、推移を見ていければと思うところです。</p> <p>その他、いかがでしょうか。市交流定住促進協議会の委員、お願いします。</p>
委員	<p>2つ質問があります。1つは、江田島市の年代別人口、社会動態に自衛隊の数値が含まれているのか。また、最後ページの社会動態の理由というのは、どういう方法で把握しているのかを教えてください。</p>
事務局	<p>この統計数値に自衛隊は含まれています。男性の若い世代に自衛隊の人数が多く含まれています。</p> <p>3ページの人口動態の把握方法ですが、引っ越して来られる方や転出される方が、市役所の窓口で転入届、転出届を出される時に人口移動統計調査の乙調査のアンケートがあり、回答していただいた数をカウントしたのがこの数値になります。</p>
委員	ありがとうございます。
座長	<p>その他、ございますでしょうか。</p> <p>それでは次に『令和4年度市民満足度調査の結果について』事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(2) 令和4年市民満足度調査の結果について【資料2】</p> <p>※ 内容は、資料2のとおり</p>
座長	<p>この件について、ご質問、ご意見はございませんでしょうか。</p> <p>満足度ポイントのなかで、年度ごとに多少入れ替わりがあってもいいと思うのですが。毎年、基本的に下がり、マイナス評価になっているものはございますか。経常的に不満度が高いままで進んでいるというものがあればお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>この資料の3枚目が満足度ポイントの推移を表したものになっています。右に黄色で塗ってある縦列がアンケートを取り始めて、令和4年の直近までで満足度ポイントがどう推移したかを記載しています。基本的にマイナスになったところはないですが、伸びが悪いところがあります。0.2ポイントの『港湾・漁港の整備』などは、全体が伸びるなかでも伸びていないというのがあります。</p> <p>この表の数字のなかで濃い青、薄い青で塗ってある項目は、満足度ポイントがその年の全体平均より低かったところです。全体施策としてみれば、青の項目はあまり変わっていません。こういった項目は満足度が上がってはいるが、平均よりまだ下と見ていただければと思います。『産業・観光部門』、『公共交通関連』、</p>

【令和4年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	『医療機関の充実』については、満足度ポイントがずっと低いまま推移している状況があります。
座長	<p>年々下がっているところは、何かしらの原因があるだろうと思いましたが、伺ってみました。</p> <p>その他、ございますでしょうか。</p> <p>市自治会連合会の委員、お願いします。</p>
委員	<p>資料2のウの基盤部門の『上水道の整備』の満足度があまり上がっていません。上水道が悪いということを経端に言えば、家庭に水がこないということです。災害等の影響もあるのかもしれませんが、上水道の整備がよくないというのは意味がわからない。これはどういうことでしょうか。</p> <p>それと基盤部門の『防災対策（河川・急傾斜地）』です。これは豪雨災害がありましたから、なんらかの施策を打たないといけないというのは住民の皆さんの意見です。それに対して満足度が低いということは、本当に対応が遅れているのか、または対応していないのか。自治会としては気になります。</p>
事務局	<p>『上水道の整備』については、満足度ポイントは60ポイント以上あり、平均よりポイント数としてはだいぶ上ということです。そもそも上水道というのは概ね行きわたっており、これ以上満足度ポイントについては上がりようがないのではないかというような見方を我々ではしています。</p> <p>『防災対策（河川・急傾斜地）』については、災害が起こったときにポイントが、がくんと落ちます。その災害の復旧は着実に進んでいますし、これからまた災害が起こらないよう工事は順次行っていますが、災害後の何年間かは安心感を持っていただくというのは難しいと思っています。決して対応していないという意味ではございませんので、そこはそういう目で見ただけだと思います。</p>
委員	<p>防災対策は各町によって違うと思います。</p> <p>沖美町に大きい河川があり、大災害に遭いました。その整備が終わっていないということで、その地域の自治会は非常に憤慨しています。まだ終わっていない箇所もあり、河川もまだ壊れたままのところがあります。</p> <p>沖美町の川だけかと思っていたら、災害があったところは遅れているということを知っています。住民の生活に直結しているので、早めに対応していただくようにしないと住民の満足度は得られないと思います。</p>
事務局	工事が終わっていないというのは木下川ですか。
委員	そうです。
事務局	<p>そこについては承知しています。早めに復旧というのは、当然行政側も思っています。土木の方から聞いた話をしますと、『平成30年7月豪雨』は、県内の広い範囲で災害が起こり、江田島市内でも各地で災害が起こりました。建設業者に発注をかけたくてもつかまらない状態が続いたそうです。なんとかつかまえて、建設業者に施工していただいてという対応のなかで、一気に直すということができなかったというのが1つあると聞いています。</p> <p>あと、木下川は工事が大変難しいらしく、この箇所ができたならようやく次の箇所に着工できるなど段取りを組まないといけない難しい工事というのでも聞いたことがあります。</p>

【令和4年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>ます。</p> <p>住んでおられる方からすれば「災害から何年もたっているのにまだ直っていないじゃないか」と思われていることは、大変理解しています。工事部門も一生懸命対応していますので、そこはご理解いただきたいのと、早めに対応するよう伝えます。</p>
委員	<p>お願いします。</p>
座長	<p>その他、よろしいでしょうか。</p> <p>市農業委員会の委員、お願いします。</p>
委員	<p>この重点取組項目についてですが、ウクライナ情勢等々の世界的な社会情勢の変化、気象災害が頻繁になっているなかで、食料の安全保障の視点。例えば、島で自給できる品目、食料というのはどの程度あるのかということ把握しながら、できるだけ災害などに強い食料の確保の視点もあっていいのではないかなと思っています。もし項目が増えることが問題でなければ、検討していただければと思います。</p>
事務局	<p>この68項目で同じ質問の仕方をするので、どう推移するかを見るためのもので、項目を増やすのは難しいと思っています。ただ、ウクライナ危機などがあった場合、食料をどう確保するのかというのは、非常に大きな問題となってくると思っています。それについてどう対処していき、どのように成果を把握し、出していくのかについては大きな課題だと思っていますので、農林部署に伝え、どのように対応していくかを検討したいと思っています。</p>
座長	<p>その他、よろしいでしょうか。</p> <p>市自治会連合会の委員、お願いします。</p>
委員	<p>調査の実施概要で回収率が33.6%、33.7%とあります。できれば50%、60%は欲しい。2,000人に対して700人弱、3分の2の方は答えていないということです。今後、回収率を上げるための施策を考えないと、本当の住民の意見が吸い上げられないと思います。</p> <p>答えてもらうためには、自治会を含め、各種団体に対して、「こういう調査がもうすぐあるので、ご協力をお願いします」と情報を流しておけば、その団体から、住民に伝えることができるのですが、今はしていないと思います。満足度調査の内容を高めるために、回収率を上げる策を今後検討されたほうが良いと思います。</p>
事務局	<p>自治会の問い掛けというのは確かにいいアイデアだと思いますので、その際にご協力をお願いします。正直、難しいところがあり、この68項目に対して重要度と満足度について評価していただくので、「面倒くさい」というご意見をいただいたりします。そのため、回収は苦戦しているところです。今いただいたアイデアも含めて、回収率を上げる取組は進めていきたいと思っています。</p>
委員	<p>今、言われたように、非常に難しいと思います。今年は私の妻にアンケートが届き、「これはどうするの。わけがわからないことがいっぱい書いてあるから、私にはわからない」と言っていました。もらった人はほとんどわからないのではないかなと思います。そのため、もっとわかりやすいアンケート、回答しやすい内容に変えることも必要です。見ただけで「やめた」となれば話にならない。結果を</p>

【令和4年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	出すためのやり方の工夫をする必要があるので、広報や回答しやすいアンケートに頭を絞ってもらえたらと思います。
座長	<p>今、色々な意見が出ましたので、事務局でご検討をいただくということと、4割が返ってくればいいというところがあるので、ある程度努力されているとは思いますが。問題は、経年変化でどうなるかということ进行调查しており、もし回収率が下がっているのであれば、きちとした対応を取らないといけないと思います。去年と比べるだけではなく、この期間に比べてどうかなども含めて、また情報提供をいただければと思います。</p> <p>それでは続いて、議題の3、『第2期人口ビジョン・総合戦略の進捗管理について』事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(3) 第2期人口ビジョン・総合戦略の進捗管理について【資料3】</p> <p>※ 内容は、資料3のとおり</p>
座長	<p>ここからはそれぞれの立場から、一通りご意見を伺い、さらにご質問等があれば受けたいと思います。</p> <p>まずは1枚目の基本目標Iのプロジェクト1『しごとをつくる・しごとの場を確保する。』で、『①中小企業・小規模事業経営の専門家による相談』についてです。市で相談窓口があるにもかかわらず、専門家による取組が十分に行なわれなかったということで、目標値を下回っています。これに関して、市商工会の委員から、今後の連携や江田島市の小規模事業者の状況についてご意見をいただければと思います。</p>
委員	<p>商工会の会員のことで言うと、コロナ関連の補助申請などが多く、経営の継続性を重点的に取組んでいます。新規相談というのは事業継続変化の際に専門家に来てもらうことが多いのですが、それより今は、コロナの影響を最小限にとどめて、企業を継続するための相談が多かったため、新規件数が減っている状況です。コロナの影響で国や県からいろいろな支援金が出ており、有効活用して事業継続していくというかたちです。</p> <p>倒産ではなく、高齢化によって後継者がいないため、このタイミングで廃業された方がいくらかおられます。事業継続をしようという方は補助金などを有効活用されていますが、活用すると何年か事業を継続しないといけないという縛りがかかる場合があるので、「これから5年はできない」と感じた方は廃業されています。一方で新規創業をされる方も出てきています。</p> <p>今は事業継続、販路拡大を目途に補助金を利用して、事業者支援をしているという状態です。</p>
座長	<p>事業を継続されている状況が続いているという理解でよろしいですか。ありがとうございます。</p> <p>続いて『③創業者支援』については、KPIの数値が目標を上回っています。お話ができる範囲で結構ですので、金融懇談会の委員に金融機関として、コロナの影響を受けた市内の事業者等の状況等について、ご意見をいただければと思います。</p>
委員	<p>コロナの影響でいろいろなことが起きているという中、銀行も『コロナ融資』</p>

【令和4年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>があります。申し込みをいただいた方にコロナ融資を実行させていただいています。もちろん、お伺いをして、ニーズを確認しながら実行していきました。広島銀行の収支しか把握できていないのですが、2022年12月末時点で、広島県全体で6,150件の約1,052億円を実行しています。江田島市内には大柿支店と江田島支店の2店舗があります。その2店舗で60件の8億5,000万円を実行させていただいています。実行先については、そのあとの様子をヒアリングしていきますが、廃業したところは今のところはありません。</p> <p>ただ、先ほど市商工会の委員が言われたように、行き詰まったの廃業ではなく、「高齢のためこの際辞めよう」というのは、実際にありました。それもごく一部で、皆さま、事業の継続をしっかりとされていらっしゃるというところですよ。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて、『⑧農地活用希望者のマッチング』についてですが、賃貸条件の不一致による説明がありました。今の農業の現状や新しい農業を始めるということについて、アドバイス等を含め、市農業委員会の委員からご意見をいただければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>まず現状ということで、視点が大きく3つあります。</p> <p>1つは人、それから土地・農地、それから経営状況の3つがあります。</p> <p>まず人の視点です。大幅に減少し高齢化しています。総農家数は、最近では約580戸で減っています。そのうち65歳以上の高齢者が7割強となっています。そういったなかで、施策のなかにもある『認定農業者』についてはあまり増減がなく、22の経営体がある状況です。</p> <p>次に土地の視点です。耕作放棄地が大幅に増加しています。耕地面積が約530ヘクタール。そのうち経営耕地面積、実際に経営されている農地が約120ヘクタールで2割しかない状況です。残りの8割は耕作放棄されています。土地持ち非農家のような人が中心となって放棄されているという状況にあります。</p> <p>それから経営の視点です。経営体については、果樹、野菜、花といった園芸作物が中心となっています。農業産出額もピークは平成7年に約18億円あったのですが、最近では9億円を切っており、非常に減少している状況です。</p> <p>課題ですが、個人的になろうかと思いますが、人に関して、農業従事者については後継者がいないというのが8割という状況のなかで、問題は市内のみならず市外からも広く人材を集める必要があるのではないかと、多様な担い手という切り口で考えています。若者、Iターン・Uターン、定年帰農・農業法人、そのような人たちにいろいろなかたちで農業をしてもらおうと。ただこれは、定住や農村都市の交流などとセットになって取組んでいかないと農業だけでは難しいのかなと。</p> <p>2つ目の土地の観点です。これだけ耕作放棄地が出ている状況のなかで、問題となるのは優良農地をどのように守り、確保するかということです。私は「守るべき農地をきちっと明確化しておこう」と考えています。毎年9月から10月にかけて農業委員会が農地パトロールを行っており、実際の農地の利用状況を調査しています。荒れそうな土地、そうでない土地については、地権者を把握し「土地</p>

を貸してほしい」と相談する取組を行っています。耕作放棄になってから出してもらってもなかなか難しく、いい状態で継続していくことが非常に大切になります。百姓というのは、動ける間は動き、動けなくなり、土地が荒れたら貸すという状態です。それでは間に合わないので、把握しながら推進していくということです。これについては、来年度の予算で一部モデル的に予算化をお願いしています。

もう一つは企業参入です。一つの事例は、モスバーガーを展開する株式会社モスフードサービスが設立した株式会社モスファームすずなり広島支部が沖美町で夏場にレモンを作りたいということで、約7ヘクタールの団地を計画しています。そろそろ造成に入る状況です。

もう一つは、『農業経営基盤強化促進法』という法律が昨年に改正され、今年の4月から施行されます。これは今後10年間の島の農業をどのようにするか、「人と農地をどのように集約していくか」ということの地域計画を立てなさい」というマスト規定ができました。特に地域で話し合いをしながら今後の2年間でつくっていきます。それからあとは、リバイスしていきますが。そういった集約を最適化していくことを4月から本格的にやらなくてはならないという状況になっています。

最後は経営の視点です。やはり農業所得を向上させないといけないということです。当然ながら他産業並みに所得として確保しないといけないということです。そのためにはどうすればいいのか。収益性の高い作物を選定していくこと。大事なのは適地適作を基本としながら、オンリーワン、ファーストワンの品目をつくっていき、育てていかないとなかなか難しいのではないかと思います。島の場合、そんなにいい農地がないので、急拡大的に大規模にできないので、そういった品目を育てていかなければならないのではないかと思います。『フィンガーライム』というまだ世の中にあまり出ていない品目があります。やっと昨年、出荷ができるようになりました。広島県はレモンがメインなので、まだまだ名前が浸透していません。そういったものを育てていくということだと思います。

それから『認定農業者』。これは国の支援、農業政策のなかで誰を支援していくか、支援の集中化とも言いますが、そのなかで認定農業者を中心に支援していこうというのは以前からいろいろな補助事業のなかに要件が入っています。まず認定農業者を育成して、確保していかないといけないだろうということです。検討中ですが、『目標所得500万円』という計画が市であります。1人あたりなので、夫婦で1,000万円ということです。とても現実的ではないということ強く申し入れており、現実的な数字として100万円下げた400万円で検討するように広島県と協議をしています。下げるということは、他産業並みということになったときにどうかという視点はありますが、数を増やさないと国の支援、施策にはまっていきません。農業の場合は自分の自助努力だけで行うには、基盤整備も含めて難しいので、支援策はどんどん活用するという視点になったとき、認定農業者制度は活用しないといけないだろうということです。それから所得目標の話をしました。これは子どものいる世帯、あるいは夫婦だけになった世帯等々で違って

【令和4年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>くると思います。子どもがいれば大学まで行かせられるような所得を稼げないと、島に定住して、農業をするというのは難しいですが、定年帰農でしたら、500万円なくても生活していけるので、それなりのやり方もあるだろうということです。その辺ももう少し手の届くような担い手対策というものを考えていかないといけないのではないかと思います。</p> <p>そういった視点で農業委員会としても活動を進めていきながら、農林部局にも色々相談をさせていくということでございます。</p>
座長	<p>空き家と似ているようなところもあります。早め、早めに対応を取っていくというのは大事だと思いました。</p> <p>続きまして、『④新規漁業就業者研修制度の活用』です。漁業に関する取組ということで、市漁業振興協議会の委員から江田島市の漁業者の状況について、ご意見をお願いできればと思います。</p>
委員	<p>江田島市の環境もやはり水温が少し高くなっており、今年、カキは大きな被害を受けています。通常なら今の単価は皆さんが手ごろに買える単価ですが、市場の相場を見ると、最低の値段が開始時期からずっと続いています。こういうことは今まで見たことがありません。また、コロナ禍のため実習の研修生が派遣されないため、作業人員が不足し出荷量も少ない悪循環となっています。現場では、殻を取る業者がカキ殻の堆積場に実入りを取っていない死んだカキ殻がたまってくるので抑えるように言いますが、生産もできていないのに抑えたら、生産者は生活ができなくなります。そのため、何回も会合をしています。また、広島県で漁業協同組合連合会が主となって『広島かき生産対策協議会』も開いてくれています。</p> <p>そして、漁民の立場としては、ヒラメ、オニオコゼ、メバル、カサゴ、ガザミ、ヨシエビなどを各組合が引き受け、振興基金などの助成を受けながら、定期的に放流事業を行っています。それでも魚が増えないのは、増加するカワウが原因です。江田島市にもずいぶん増えています。</p> <p>あと問題点は、漁業後継者がなかなか育たないことです。海的环境は厳しく、漁業者の協力だけでは難しいです。</p> <p>目指したいのは、若い世代に引き継ぐことですが、燃料の問題もあり給料的にも厳しい状況です。「漁に出ないのか」と聞き、「出ても油代になるかな」と返事をされたら、「頑張っよ」とは言えないです。</p> <p>今はこのような状況ですが、一生懸命取り組んでいます。</p>
座長	<p>この中には『子どもたちが漁師の仕事をする機会の提供』もあるのですが、なかなか。今回は動画を撮影して活用等できることもあるので、その体験ということも関わってくるのかと思いました。</p> <p>続いて、プロジェクト3の『①新たな宿泊観光関連施設の整備』です。海岸周辺の環境整備など行われています。また体験観光メニューも増えており、好調なところがあると思います。本日は市観光協会の委員が欠席されていますので、もし事務局で事前に伺っていることがあればご紹介いただければと思います。</p>
事務局	<p>事前に委員にはお伺いしています。</p>

【令和4年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>以前、江田島市は大型集客施設、宿泊施設が乏しく、観光消費額が少ないという課題がありました。『ホテルご安航』、『江田島荘』、さらにはキャンプ場・グランピング施設などが相次いでオープンをしました。課題であった宿泊施設の不足は解消されているのではないかと。また、近年はメディア等を活用した積極的なPR活動が功を制し、江田島市に関心を持つ方が増え、訪れていただける方が増えてきたのではないかと。しかし、滞在時間を延ばす施策の不足が課題ではないかと伺いました。</p> <p>今後は行政と連携をしながら既存の観光施設の整備、また埋もれた資源の発掘にも積極的に取り組んでいきたい。さらには歴史・文化、豊富な農水産物といった良質な資源の活用方法も改めて見直し、官民一体となって体験型観光メニューの開発に取り組んでいきたい。また、こうした取組を充実させていくことにより、年間を通じた観光客の誘致による観光消費額の拡大を進めていければと考えておられるそうです。</p>
座長	<p>続いて、プロジェクト4の『①若年層への市内企業の紹介や就職情報の提供』です。福祉関係の求人が増えているということですが、若い世代の方々のニーズも含めて、呉公共職業安定所の委員からご意見をいただければと思います。</p>
委員	<p>計画未達成の理由として『全体的な求職登録者の減少』と挙がっています。令和2年、令和3年に関しては、コロナの影響がかなり大きかったと思います。令和4年度に関しては、資料1の年齢別人口で見たように、29歳以下の絶対数が少ないというのが、一部あると思います。</p> <p>全国的にハローワークに来所されて登録する求職者の数は、減少傾向にあります。コロナのための行動制限が長くあり、行動様式が明らかに変わってきたというのがあると思っています。特に若い方を中心に、今までは来所されて対面で相談をするのが一般的だったものが、オンラインなど新しいツールがどんどん出てきました。民間企業では多く活用され、特に若年層を中心に進んでいます。その関係で求職者数の減少が進んでいるのかと思いますので、仕事を探している方が少ないわけではなく、探し方がかなり変わってきているということです。今、二極化しているところもあるのかもしれませんが。</p> <p>ハローワークで現在している取組にもありますが、オンライン化の波は止めることはできないので、我々もオンライン化していかななくてはと思います。すべてをオンライン化するわけではありませんが、一つのツールとして、オンラインによる職業相談、職業紹介などを今年度から始めています。ハローワーク呉が江田島市と少し離れているため、オンラインでの企業説明会を実施しています。福祉施設などとハローワークの会議室をつないで、来ていただいた方に福祉施設を見ていただき、興味を持った方が面接に行くということを今年度は実施しています。あとLINEなども行っており、来所されない層にアプローチを進めています。</p>
座長	<p>どのように若者の求職状況の動向を把握していくかというのは大きな課題であると思います。</p> <p>続いて、2枚目の基本目標Ⅱに移ります。移住・定住に関する部分で、KPIはいい数値が出ていると思います。市交流定住促進協議会の委員から、今の状況に関</p>

【令和4年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>してご意見をいただければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>お手元の資料で、成果が生まれていることは見て取れると思います。先ほど冒頭にお配りさせていただいたメモを踏まえて、傾向、要因、課題などのご説明させていただきます。</p> <p>1の「移住希望者の傾向と要因」ですが、以前から年代層では30代から40代、50代から60代が多いです。居住地については県内の方が多く、年代層では、30代、40代は全体の3分の1、50代、60代は半分くらいを占めています。居住地は、県内居住者が4分の3、県外が残りの4分の1、そのうち関東圏からの相談者が1割という状況です。</p> <p>実感値にもなってきますが、ここ数年、地域の活動や商売を江田島市でしてみたいという人が増えているように思います。例えば、「空き家をリノベーションしてカフェをやりたい」、「サウナをやってみたい」など、江田島市だから何かできそうだと思って、相談に来る人が増えている印象があります。</p> <p>あとは、コロナ禍でリモートワークをする人が増えてきました。環境が整っている会社が増え、「自宅においてフルリモートで仕事ができるので江田島市に移住をした」という方も増えてきています。</p> <p>江田島市にはホテルなどいろんな施設や企業の移転が進んでいます。そこに新しく就職する方、もともと企業に所属して移転とともに移住してきた方なども一定数増えているかと思います。</p> <p>間違いなくあるのが、人が人を呼ぶというところです。地域での活動や商売、リモートワークをしながら島暮らしをしている人たちは影響力が大きく、その人たちに魅せられて来る人というのも数珠つなぎ的に増えている印象があります。メディアにも紹介されやすいため、それを見た人が来るという動きもあるように思います。</p> <p>『江田島市移住・定住ポータルサイト hodohodo』が2年前にできました。最近リニューアルしましたが、移住相談者から江田島市のポータルサイトはすごくデザインがよく、わかりやすく、瀬戸内海のほかのエリアと比べて非常に好印象というお声をいただいています。</p> <p>2に需要に対して供給が不足という課題感を挙げています。移住ニーズが急増している一方で、以前からある課題ですが、紹介できる空き家が不足していることです。主には『江田島市空き家バンク』を紹介していますが、空き家も好き嫌いがあります。例えば、海が見える物件がいい方が大半ですが、そのような物件ばかりがあるわけでもないです。供給できる物件の情報をもっとあればニーズに対してお応えができるかなという状況です。</p> <p>最近、不動産業者と話をする中で、そのような空き家が無いなら、空き地を買って家を建てるという人も増えてきている印象があります。江田島市に財をはたいて家を建て、住む方が少し増えているという印象があります。別荘地にリゾートマンションのようなものが最近建ち、入居者数も少し増えているという話も聞いています。</p> <p>雇用の受け皿不足と会社の勤務についてですが、特に働き盛りの世代にとって</p>

【令和4年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>は、移住とともに仕事はどうしても必要になってきます。この島で望む職を探すことが難しいというのは、以前からありますが、ホテルなどの新しい施設、あるいはここ近年増えている IT 企業などが新たな雇用の受け皿になっているところは、一つ解消の機運になっていると感じています。</p> <p>これは個人的な案になりますが、これまでの施策は当然大事なことなので続けつつ、全国の地域とある程度差別化を図っていく必要があると思い、いくつか案を考えました。</p> <p>ターゲットは『子育て世代』と『白秋世代』。子育て世代は、来ていただくに越したことはないと思います。白秋世代は 50 代から 75 歳までの世代で、人生 100 年時代のなか、第 2 のキャリアをどう形成していくかと社会問題となっていることはご存じかと思います。大企業の方から、その世代に対して、会社として次にどういうキャリアを示せるかというのが課題であると話をよく聞きます。果たして、この世代にどんどん江田島市に来てもらうのが本当にいいかどうかという議論はあるかもしれませんが、一つのターゲットにはなるのかと思います。</p> <p>さらに『できれば県外居住者』と書いていますが、移住希望者のほとんどが県内の方とありました。広島県は全国で転出者割合がワースト 1 位です。県全体で多くの方が県外に出ているということ踏まえると、江田島市として県内の方が移住希望をしていただくのもうれしいですが、もっと県外からも人が呼べるようになればいいと考えています。</p> <p>その次に、移住希望者向けにツアーをする。ほかの地域でも行っていますが、江田島市の暮らし、移住して活動をしている人たちとの交流、空き家案内など、移住希望者が欲しい情報を現地で伝えることができるツアーを開催できたらと思います。そういうことがあるとより移住希望者は来てくれるかなと思っております。</p> <p>住まいの供給力を高めるというのは、空き家不足等の課題と関連しますが、これからも空き家の掘り起こしは継続するとともに、空き地の情報が紹介できる『空き地バンク』や『さかさま不動産』などを参考にして住まいの供給力を高めるのは一案と思っています。さかさま不動産の取組というのは、少しずつ取組む地域が増えてきています。何が逆さまかという、一般的には、こういう物件や土地がありますという情報を公開して、そこに興味がある人が来るという流れですが、オーナーや地域の人からこういう人に来てくださいという情報の出し方をする取組です。</p> <p>最後に、コロナ禍の中でリモートワーカー向けに江田島市での暮らしをどうやって PR できるかというのは、一つ大事なポイントかと思っています。</p>
座長	<p>さまざまな現状、新しいワードも踏まえて色々情報提供をいただきありがとうございました。</p> <p>続いて、基本目標Ⅲ『子どもが生まれ、育つ環境をつくる。』について、市 P T A 連合会の委員と市認定こども園えたじま保護者会の委員から、ご意見をいただきたいと思います。小中学校の子育て世代の状況、教育環境について、最初に市 P T A 連合会の委員からお願いします。</p>

【令和4年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

委員	<p>学校教育に関しては、江田島市は人口が減っているということもあり、だいたい1クラス10人から20人ぐらいのクラスが多いと思います。そのため、通常学級でいえば比較的一人ひとりに目が届きやすい教育環境にあると思われれます。ただ一方で特別支援学級であるとか不登校児のケアというところでは、都市部では特別なプログラムを組むなど色々な選択肢ができる状況にありますが、江田島市では少なく、なかなか難しい課題ではあります。力をもう少し入れてもらえたらありがたいという声は聞かれます。田舎ならではの強みというところや利点というところも生かした教育というのは、これからもどんどん展開してもらえたらいいと思います。</p> <p>学校教育以外でスポーツ少年団などですが、人口が減っているのも、スポーツをする子どもも減っていることもあり、どんどん弱体化しているのではないかと思います。昔は、小学校の教員などがコーチをしていましたが、今は地域の方がメインでしている状況です。小学校ではスポーツ少年団があっても、中学校の部活には無いという現状があります。小学校、中学校はゴールデンエイジと言われているのに、スポーツを伸ばしていくことができないという課題があります。それが少子化の悲しいところかなと思います。なんとかしてスポーツができる環境を整えていけたらなと思います。</p>
座長	<p>続いて、市認定こども園えたじま保護者会の委員から『⑤子どもが自由に伸び伸び遊びたくなる場所の確保』ということで、子育ての環境についてご意見をいただければと思います。</p>
委員	<p>認定こども園に4年ほど通わせていただきましたが、子育ても仕事も私は両立できる環境ではないのかなと思いました。</p> <p>子育て環境について、数人ではありますが意見をいただきました。</p> <p>バス通園があればいいのではないかという意見をいただきました。例えば、『認定こども園えたじま』でしたら、津久茂、宮ノ原方面の少し遠い場所に住み、更に免許を持っていないという方たちにとっては、バス通学・バス通園は便利なのではないかと思いました。</p> <p>自然と触れ合う機会を増やしてはどうかという意見もいただきました。コロナ禍ではありましたが、娘は海で散歩、ウェイクボード、古鷹山の登山など、自然と触れ合うイベントや機会がありました。今の子どもたちはインターネットやゲームの時代なので、自然と触れ合う機会を作ることはいいことだと思います。</p>
座長	<p>具体的なお話をいただき、ありがとうございます。</p> <p>市自治会連合会の委員、お願いします。</p>
委員	<p>プロジェクト3の『②保護者による子育て仲間（グループ）づくりの促進』とありますが、PTAの役員等に話を聞いてみたところ、グループの集まる場所がないと。まずは、集まる場をつくらないことには、子育て仲間づくりはできないと思います。</p> <p>それと『⑤子どもが自由にのびのび遊びたくなる場所（公園・広場）の確保』は、都市整備課で対応していると思うのですが、公園・広場の調査がありましたが、地域によって公園があるところと無いところがありました。「公園を使ってい</p>

【令和4年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>きましょう」、「どういうようにしましょう」と考える前に、場所が無い地域もあります。そういうところは無いのにどうすればいいのでしょうか。</p> <p>わいわい集える場所、子育てする場所が少ないので、小公園でもいいからつくってもらいたいというのがあり、検討していただきたいと聞いています。</p>
座長	<p>ご意見ということで伺っておきたいと思います。今、子育てのお話をいただいています。広島県健康福祉局子供未来応援課の委員にも国や県の状況について情報提供いただければと思います。</p>
委員	<p>冒頭で人口移動の統計結果の説明がありましたが、「令和4年の出生数は80万人を割り込んだ」と大きくニュースでも取りあげられています。この数字がどれだけインパクトのある数字なのかということですが、平成29年に国の国立社会保障・人口問題研究所が将来人口推計を出しました。将来、出生数が80万人を下回るのは、出生数の楽観的なシナリオでは2054年、中位のシナリオで2033年、一番悲観的なシナリオで2021年と出しました。その一番悲観的なシナリオにほぼ近いスピードで出生数の減が進んでいるという状況です。</p> <p>国もすぐ危機意識を持っていて、これまでとは次元が異なる異次元の少子化対策をしなければいけないということで、子ども関係の予算を倍増し、こども家庭庁をその司令塔として、令和5年から設置して、国を挙げて取組んでいくと掲げています。</p> <p>具体的に何をするのかというところは、まだ全く整理されていません。今月末にはその骨格を示して、6月の骨太のときに予算倍増に向けた大枠を示して、秋に『こども大綱』をつくって、具体的にどういうことをするという全体像を示すスケジュール感になっています。</p> <p>都道府県や市町村も、国のこども大綱を受けて、こども計画をつくって、こども政策を進めることになっています。この計画で取組む施策というのは、子どもがいる家庭への支援ということだけではなく、仕事の間をつくる、移住・定住などを全部含めて国が社会機能を維持していくために、社会全体で子どもを産み育てやすい環境をつくっていかなければいけません。</p> <p>そのために異次元の少子化対策といわれていることを議論していくようになります。県としても国の動きを見ながら、早急に整理しないといけないと思っています。</p> <p>この江田島市総合戦略は令和7年度までの計画となっていますので、令和7年度まで整理されていますが、少子化対策は次の令和8年度からの計画に盛り込みますということでは、打ち手も遅くなる可能性がありますので、国や県の動きも見ながら、計画期間にとらわれずに新しいこともするという観点でぜひ取組んでいただけたらと思います。</p>
座長	<p>最後、基本目標Ⅳ『元気に暮らし続けられるまちをつくる。』についてお話を伺いたいと思います。昨年度も同様でしたが、受診率は非常に低い状況が続いています。このような状況につきまして、市自治会連合会の委員と市PTA連合会の委員から、それぞれ状況や対策など、お気づきの点があればお聞きしたいと思っています。</p>

【令和4年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>まずは市自治会連合会の委員から、お願いします。</p>
委員	<p>今、検診率という問題が出ましたが、この問題は国民健康保険の委員会などでもずっと出ています。前市長のときから、この問題についてどうしたらいいだろうということ、話し合いをしてきましたが、なかなかこれという妙案は浮かんでいません。</p> <p>とにかく検診率を上げるためには、いかにPR活動や広報をしていくか、なんのために検診があるのか住民にしっかり理解してもらうことが重要であると考えました。そこで、学校・PTA、自治会等で集まりがあったときに広報活動をしました。一時期少しずつ増えてきましたが、コロナ禍となり「人が集まったり病院に行ったりすればコロナに感染する」ということで受診を控える方が増えました。これが現状です。そうはいつても受診率を上げないと、成人病等が増え、健康寿命が下がり、医療費もどんどん増えます。病気は、早期発見、早期治療というのが大原則です。そのために受診活動をしているのですが、それをやはり理解してもらえません。</p> <p>今、エコー検査、併せて人間ドックもしていません。社会人では、60歳まで人間ドックは毎年しています。そのおかげで病気を早く見つけ、早期治療に結べていましたが、国保特定健診ではありません。3～4年前までは、エコー検査はありましたが、それもなくなりました。そのときに、なくなった理由で、簡単な人間ドックを取り入れるためという話がありました。人間ドックがあればエコー検査もあるので受診率の向上にもつながり、住民も「いい案だ」と言っていたのですが、なぜか廃案になりました。やはり住民に魅力ある受診活動をすることが受診につながり、自分の体を守っていくことになり、健康寿命を延ばしていくことに続くと思います。最終的にはこれが医療費の減少にもつながります。これが私は大きい一つと思います。</p> <p>それとプロジェクト2の『⑥高齢者の活躍の場の確保(シルバー人材センター)』については、高齢者の活躍の場というのは、マイナスイメージが強いです。自治会を含めて、いかに魅力ある場にしていくか。地域を守るために活動しています。ただ一部では進んで活動している方もいらっしゃいますが、ほとんどは仕方なく活動しています。そういうところを、自治会等も含め、魅力ある活動ができるような場にするのを江田島市として考えて、検討していかないといけないと思います。</p>
座長	<p>続いて市PTA連合会の委員、お願いします。</p>
委員	<p>検診のことについては、市自治会連合会の委員がすべて言ってくださったので大丈夫です。</p>
座長	<p>わかりました。一通り4つの基本目標について皆さまからお話をいただきました。全体を通して、何か皆さまからご意見やご質問があればお願いします。</p> <p>市交流定住促進協議会の委員、お願いします。</p>
委員	<p>お話を聞いて感じたことで、そもそもこの計画ができたのは、コロナ前だと思います。コロナ禍、異次元の少子化対策とか、時代によって大きく変わっている中で、果たしてこの計画はそのまま経年変化を探っていくといいのかという疑問が</p>

【令和4年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>あります。計画内容を個別にマイナーチェンジしていくことも必要なのではというのを個人的に感じたので発言させていただきました。</p>
座長	<p>その他、いかがでしょうか。今、ご指摘のところは、私も感じていました。今回、皆さまからいろんな課題を出していただきました。農業・漁業を継ぐ人がいない状況がある一方で、IT関係などは増えている状況もあり、ミスマッチなところもありました。ここで出されている施策と、今、ここで言っていた課題というのがうまくマッチしているのかどうかというのは、もう少し議論の必要があるのではないかと感じながら伺っていました。</p> <p>もちろん、総合戦略として決まっているので、やるべきことはやらないといけないですが、ここだけにとらわれず、今、出された課題にどのように応えていくかということを検討していかなければならないなど。また来年度も議論をしていくと思いますが、いくつかここに出てきたご不満な点ということが多少でも解決できているような方向で、いろいろなことが語られればいいのではないかと思っています。</p> <p>コロナについては一旦収束するというかたちがつきましたので、コロナを理由にできなかったということはなくなっていくと思いますので、本当にこれが有効に機能しているのかということも含めて、検討していけるようになればいいと思っています。</p> <p>時間の中で十分にご意見等を頂けなかったところもありますが、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、最後に『令和2年度・令和3年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の効果検証について』事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(4) 令和2・3年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の効果検証について【資料4-1～4-3】</p> <p>※ 内容は、資料4-1～4-3のとおり</p>
座長	<p>この件に関して、ご質問等はございますでしょうか。</p> <p>市自治会連合会の委員、お願いします。</p>
委員	<p>『(4) 主な取組及び評価』で各小中学校におけるGIGAスクール事業を推進についてなのですが、このGIGAスクールはどういった意味ですか。説明してもらえますか。</p>
事務局	<p>このGIGAスクール事業というのは、各小中学校の生徒に必ず1台パソコンを配備し、例えば教育、さらには、コロナ感染対策のために自宅で別途授業を受ける、連絡を受けるなどにも活用するという事業です。もともと国の補助金がありましたが、さらにコロナ交付金で後押しするかたちで事業を推進したことを例として挙げております。</p>
委員	<p>オンライン授業の延長ですね。わかりました。</p>
座長	<p>その他、いかがでしょうか。</p> <p>事業者については、先ほどなんとか持ちこたえているというお話もありましたので、効果があるのかと思っております。</p>
座長	<p>5 その他</p>

	<p>6 閉会</p> <p>以上で報告・協議事項は終了します。閉会に当たり、事務局から何かございますでしょうか。</p>
事務局	<p>本日は、ありがとうございました。いただいたご意見については、関係部署に伝え、施策を推進する際の参考とさせていただきます。</p> <p>また市交流定住促進協議会の委員からあったように、今後、この総合戦略はこれでコンプリートなのかといたら、そうではなく、少子化対策やデジタル関係の施策などについて入っていないので、そういったものを今後はどうするかという課題が出てくると思います。</p> <p>この総合戦略は個別の事業内容を書いているので、今ある想定人口効果は560人として置いておき、それに対してデジタル、子育てなどを具体的な取組に足していき、560人が最終的に600人になるかもしれません。そのような変更のかけ方というのは、あるかと思っていますので、そういうことであれば、またこの場でご相談することになると思っています。</p>
座長	<p>最初に申しましたが、特に20代の女性の比率が非常に減っています。人口減の一番大きい原因は、結婚しないまたは結婚しても子どもがいないことで子どもの人口を減らしているところにあります。そこをどう解決していくのかという問題が非常に大きいと思います。そもそも20代の女性がいないということ自体が人口減少を加速させていく要因だと思います。いずれにしても、単なる対策ではなく、住みやすい環境をどのようにつくっていくかということは非常に大きな課題になっていくと思いますので、そこを意識しながら、また来年度に向けていろいろなことを考えていただければと思います。</p> <p>本日は皆さまのご協力の下、無事に終了することができました。ありがとうございました。</p>